

Day

1

タイトル

4. モロッコの知見と経験の共有
(2) 都市廃棄物管理の改善ーティズニット市の事例

発表者

ティズニット市 職員 Ahmed Hanni

要約

本発表は、モロッコ政府と日本政府の協力のもとに実施されたティズニット(Tiznit)における廃棄物管理改善プロジェクトの経験を共有するものであった。プロジェクトの枠組みについては、以下のとおり説明があった。プロジェクト期間は3年間(2013年4月～2016年3月)、対象地域はティズニット・コミューンと周辺のコミューン、プロジェクト目標は、1)ティズニット州の固形廃棄物管理能力の向上、2)家庭系廃棄物管理の地方マスタープラン策定のガイドラインの実施、3)国家廃棄物管理マスタープランの提言の遂行。

このプロジェクトでは、4つのコミューンを対象に、モデルを作成するというコンセプトの下、いくつかの活動が行われた。まずプロジェクトは、コミューンの制度、経済財務などの現況分析を通じて、都市における現在の廃棄物管理の強みと弱みを明らかにし、廃棄物の発生量及び組成調査(WACS)を実施した。WACSを実施する前は、市の廃棄物を処理するために発電付焼却施設(WtE)の導入を検討していたが、WACSの結果、廃棄物組成の70%以上が有機物であり、WtEに適さないことが明らかになった。発表者は、最終的に市がWtEを導入しないという正しい決断を下すことができたことを強調した。

さらに現状の分析結果を踏まえて、収集ルートの改善、現在の処分場の改善とアップグレード、廃棄物管理に関する市民意識の向上などのいくつかのパイロット・プロジェクトが実施された。

結論として、発表者は、廃棄物管理の現状把握の重要性、特に廃棄物の量と組成を適切に理解することが適切な意思決定にとって重要であり、これを他の都市にも広めたいと述べた。

発表の後、参加者からは、どのようにコミュニティにアクセスしたのか、またどのようにステークホルダーとコミュニケーションを図ったのか、などといった質問がなされた。これらの質問に対し、発表者は、廃棄物管理に関する市民の意識向上と関係などの指導者間の情報交換が重要であると説明した。